

お知らせ

定山溪中学校で定山溪もりづくり発表会を開催 ～地域と森林づくりの重要性を共有し今後の展開を市民と考える～



平成23年2月23日水曜日、定山溪中学校で北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター主催の「定山溪もりづくり発表会」が開催されました。

昨年から札幌市民の水瓶、定山溪国有林で地域に根ざした取組み、地域のもりから学ぶ「森林づくり」や森林の調査観察、森林生態系（森林の生物多様性）を学ぶ活動を生徒や市民、専門家とおこなってきました。

活動で地域の皆さまに沢山のご協力をいただきました。

発表会では生徒や専門家から取組の経過や森林づくりからわかったことなどを報告しました。



森のミミズのお話し 北大 春木先生

〔専門家講師から報告〕

北海道大学の春木准教授から森林土壌をつくるため懸命に生きるミミズのお話しや各講師から森林にすむ野生動物、昆虫、キノコなどの菌類、樹木の種、空中から見る森林の航空写真など専門家からわかりやすい報告がありました。

定山溪中学校生徒からは定山溪国有林で、様々な視点から森林の重要性や自分たちが体験を通じて発見したことや学んだことについて発表がありました。

熱心な生徒の発表で参加した市民も感銘を受け盛んに拍手を送っていました。

続いて森林の生物多様性についてのパネルディスカッションや最後に市民と意見交換をおこない閉会となりました。



パネルディスカッションの様子



市民と意見交換の様子

定中生徒の発表

生物多様性について理解してもらうことを目的に地域の方々や関係機関と協働で行った森林教室に参加した定山溪中学校生徒は各学年の代表が発表しました。

・野生動物の自動撮影ではエゾシカの撮影頻度が多くなっておりアライグマといった外来種も存在して深い森にも人の手による動物相の変化が起きていることに驚いたと報告がありました。

また、感想では

・お話ししてくれた人は本当に森が好きなんだな、と思いました。

自分も何かに熱中できる人間になりたいと思います。

・種の多様性も大事だけど、種の中の遺伝子の多様性も重要だという

お話しを聞き、私たち自身も一人ひとり個性の違うものが互いに

支えあって生きていくことが大切と改めて感じました。

など感じたことを素直に述べていました。

右写真は定中生徒発表の様子

私たちは生徒の発表を聞いて熱く込み上げるものを感じました。自然環境や地域、生徒から学ぶ生涯学習。「森林づくりは人づくり、心づくり」！！

